

平成 18 年 11 月 1 日

物流連ニュースリリース

第 10 回 政策・広報委員会を開催

(社)日本物流団体連合会(物流連)は、平成 18 年 10 月 27 日(金) 14:00 から霞山会館(霞山ビル 9 階)「霞山の間」において第 10 回政策・広報委員会(委員長 : 栗林 貞一名誉顧問)を開催した。

今回は横浜商科大学 商学部 橋本雅隆教授より『海外の高等教育機関の事例を踏まえた我が国における物流教育のありかた』について説明を受け、アメリカの高等教育についての質問など活発な質疑が交わされた。つづいて前回検討した「小中・高校生の物流教育に関する教科書以外の取り組み」について、事務局が作成したメニューに対する物流連会員アンケートの報告、および 9 月 13 日に開催した「広報活動実行委員会」での検討を受けて事務局でまとめた施策の試案について討議を行った結果、「物流見学ネットワーク」の構築と「物流ラブラリ」の設置が決定された(内容:別添資料 2.3.4)。

1. 橋本教授による『海外の高等教育機関の事例を踏まえた我が国における物流教育のありかた』についての説明の主たる内容は次のとおり

日本における物流教育は世界的に見ても非常に遅れていると言わざるを得ない。物的流通という概念が 1960 年にアメリカからもたらされた時期にマーケティングも輸入され、その後マーケティングは大きく発展していったが、物流は流通の一部であるとか、或いはマーケティングの一部であるというような形で認識されてきた経緯がある。

また、日本のロジスティクス教育を担当されている分野というのは非常に広い。しかもそれが工学系(土木工学・経営工学)であったり商学・経営学系であったり様々で、なかなか同一行動が取れなかったことも遅れの要因の一つである。

海外のロジスティクス教育について調べてみると、ロジスティクスの学部ないしは大学院を持っているのは、アメリカで 188、ドイツ 45、カナダ・フィンランド・スウェーデン等 7 に対し、日本は 4 大学である。アメリカとの人口比率から見ても、日本は 60~70 大学位あっても良いはずである。

特にアメリカではロジスティクスは企業のマネジメントの一つとして位置づけられている。また、一般の言葉、例えば、「今日のコンサートのロジスティクスは大変

うまくいった」というような使い方がされている。これは、例えば会場の設営やチケットの販売などが非常にうまくいったことをいう。つまり一般的な常識としてロジスティクスが根付いている。

また、小学校・中学・高校の教育の中にロジスティクスがあり、高校の中にはロジスティクスの専門コースがある。そこを出た学生がアメリカの大学のロジスティクス学部に入ってそのまま育ってキーマンとして出ていく。

アメリカの大学にはロジスティクスの有名な研究者が何人か居る。その先生の居る大学が非常に学部を大きくして企業から支援を受け、財政も豊かになって、そこから研究者を大変多く輩出している。教え子が運営している大学が、「自分のところもロジスティクス学部を作ろう」ということで派生的に増えていったという流れがある。

それからもう一つの大きな点では、専門性に裏打ちされている資格制度があることである。資格制度というのは CSCMP「Council of Supply Chain Management Professionals」の協会が出しているもので、中には、12の機関による21の資格が挙げられている。ロジスティクスの関連資格は非常に幅が広く、運輸関係、物流関係、生産管理、損害賠償請求関係、購買担当、会計関係、コンサルタント、包装専門家、マテハン専門家、輸送専門家、エンジニアリング専門家、倉庫専門家などで、これだけの資格があって、このような資格の有無が給与やポストにダイレクトに連動している。

いずれにしても日本の場合は海外の例をもう少し見習って、産・官・学の連携をこれからも強力に推進していく必要がある。

2. 小中・高校生に対する教科書以外の取り組みについて

事務局が作成したメニューに対する物流連会員アンケートの報告

(別添資料1)

3. 施策の試案について (別添資料2)

(1) 物流見学ネットワークについて (別添資料3「フロー図」)

(2) 物流ライブラリの設置について (別添資料4「フロー図」)

4. 報告事項

(1) 関西大学物流施設見学会終了について

10月21日(土)商学部100周年を記念した大学寄附講座の追加設定および、関西大学創立120周年記念事業の一環として、神戸ポートアイランドおよび神戸空港の物流施設見学会を実施した。関西大学学生、教授を含め約40名が参加した。

(2) 横浜国立大学寄附講座の開催について

10月5日から開催し、過去最大の350名以上の履修者となっている。

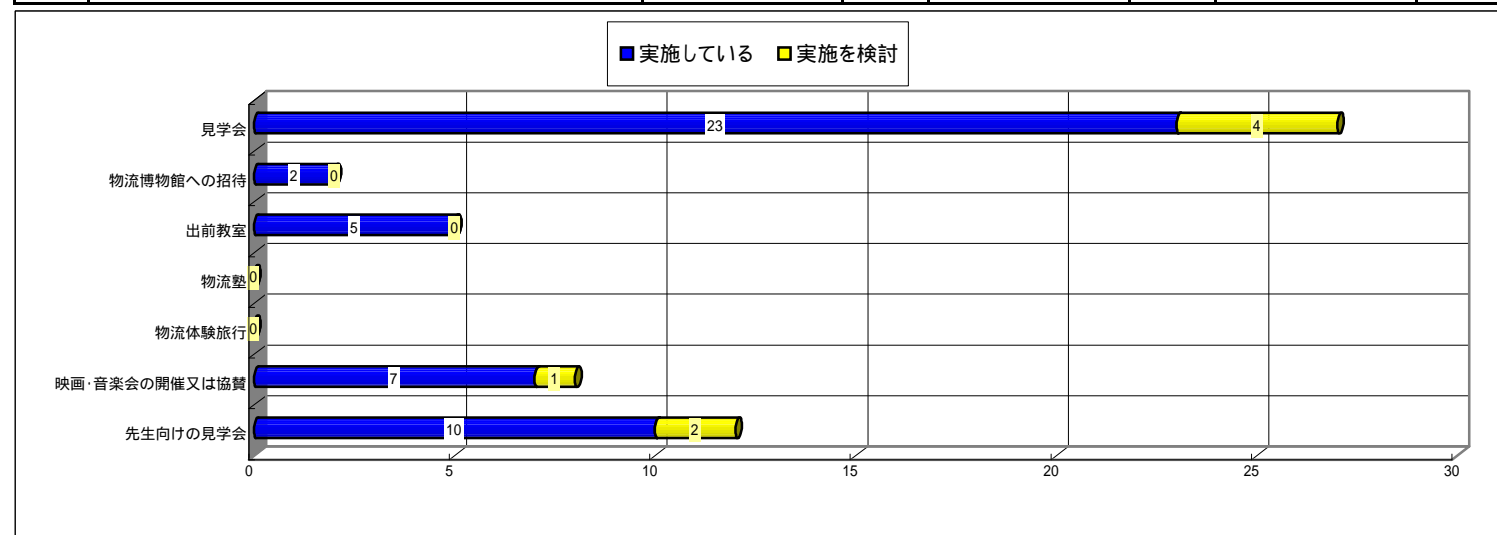
以上

(連絡先) 担当 西城、新開
03-3593-0139

1. 実態調査書回答内容

A. イベント系に関する実態調査結果

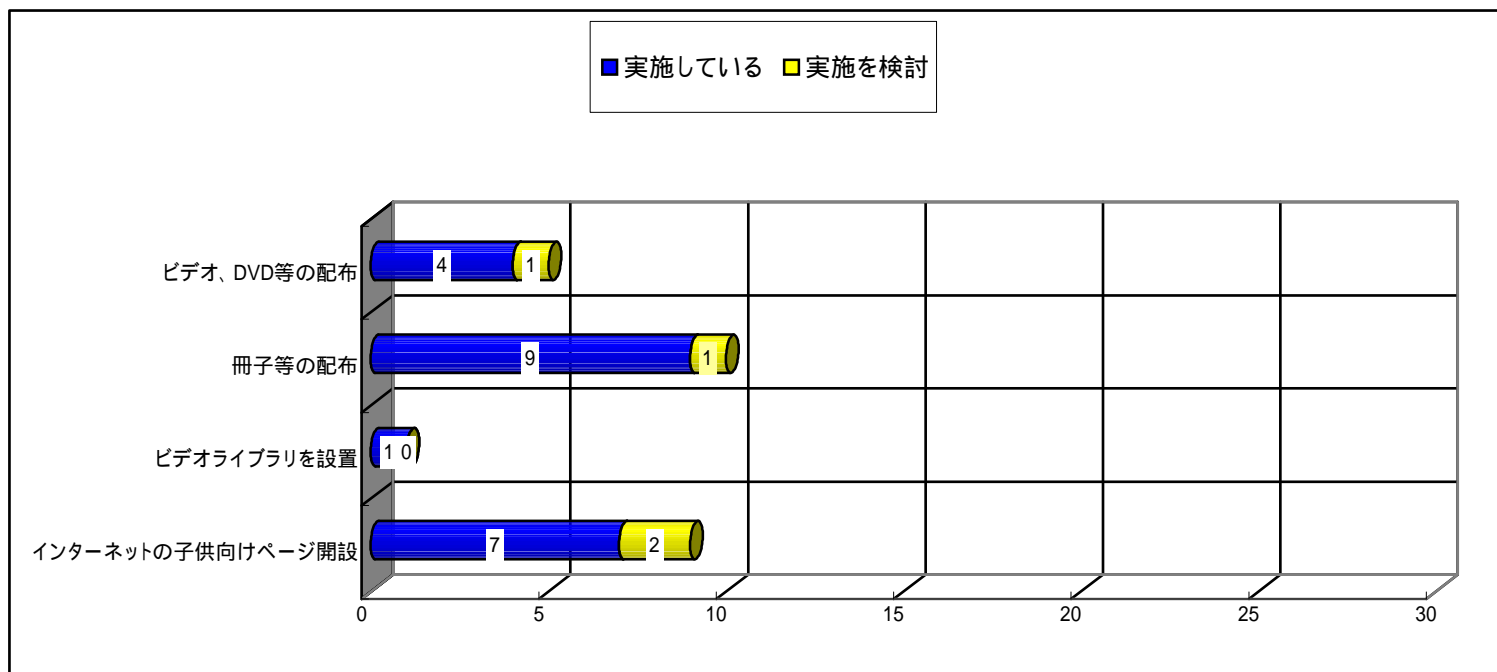
	実施している	%	実施を検討	%	該当無し	%
1 見学会	23	28.4	4	4.9	54	66.7
2 物流博物館への招待	2	2.5	0	0.0	79	97.5
3 出前教室	5	6.2	0	0.0	76	93.8
4 物流塾	0	0.0	0	0.0	81	100.0
5 物流体験旅行	0	0.0	0	0.0	81	100.0
6 映画・音楽会の開催又は協賛	7	8.6	1	1.2	73	90.1
7 先生向けの見学会	10	12.3	2	2.5	69	85.2



* 「見学会を実施している」という回答が23件と圧倒的に多かった。また見学会の「実施を検討している」という回答も4件あった。その他に「先生向けの見学会」が10件、「映画・音楽会の開催又は協賛」が7件、「出前教室」が5件、「物流博物館への招待」が2件あった。先生への見学会で「実施を検討」が2件もあり、会員の教育者に対する認識向上への要望が感じられる。

B. PR素材系に関する実態調査結果

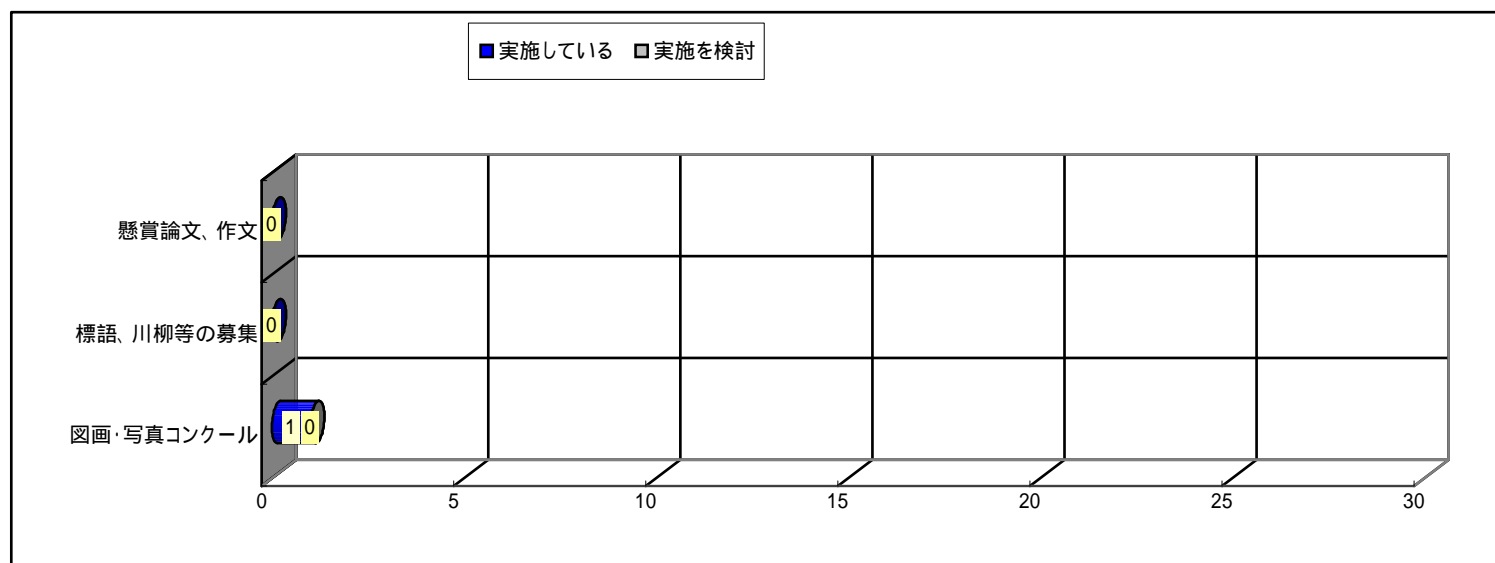
		実施している	%	実施を検討	%	該当無し	%
1	ビデオ、DVD等の配布	4	4.9	1	1.2	76	93.8
2	冊子等の配布	9	11.1	1	1.2	71	87.7
3	ビデオライブラリを設置	1	1.2	0	0.0	80	98.8
4	インターネットの子供向けページ開設	7	8.6	2	2.5	72	88.9



* 「冊子等の配布」が9件と多く、また「インターネットの子供向けページ開設」が7件、「ビデオ、DVD等の配布」が4件、「ビデオライブラリーを設置」が1件となっており、殆どの項目で実施を検討という回答があり、各社とも積極的に進めようとしているところが見られる。

C. 募集系に関する実態調査結果

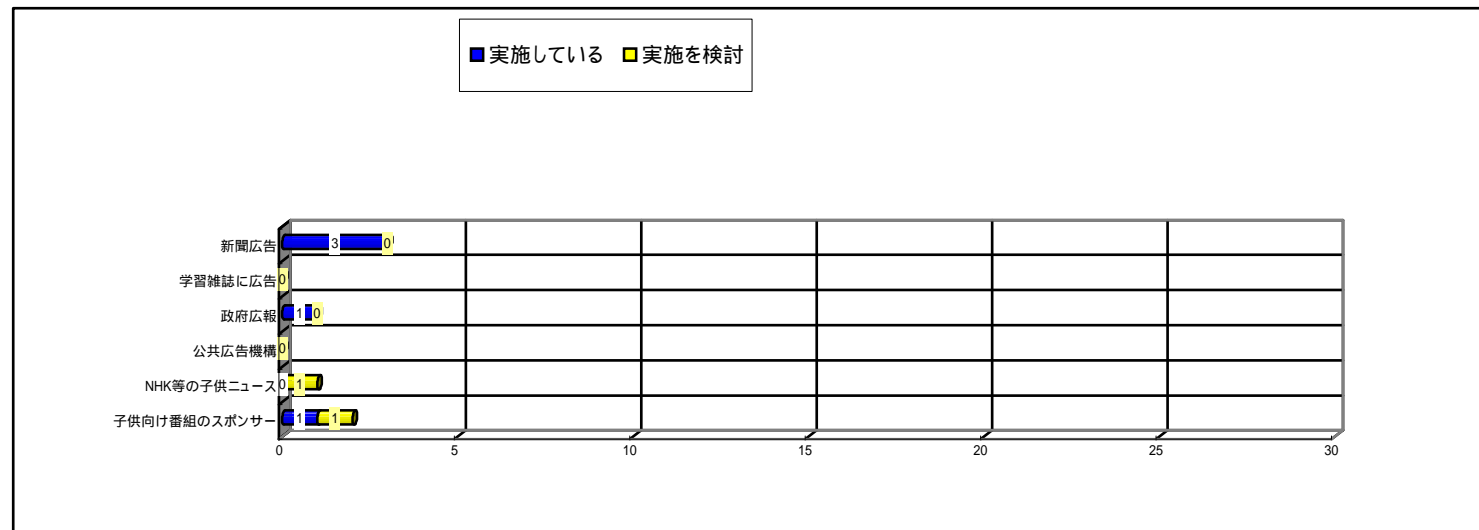
	実施している	%	実施を検討	%	該当無し	%
1 懸賞論文、作文	0	0.0	0	0.0	81	100.0
2 標語、川柳等の募集	0	0.0	0	0.0	81	100.0
3 図画・写真コンクール	1	1.2	0	0.0	80	98.8



* 「図画・写真コンクール」で1件のみで、しかも実施を検討しているところは1件もなかった。

D. マスメディア系に関する実態調査結果

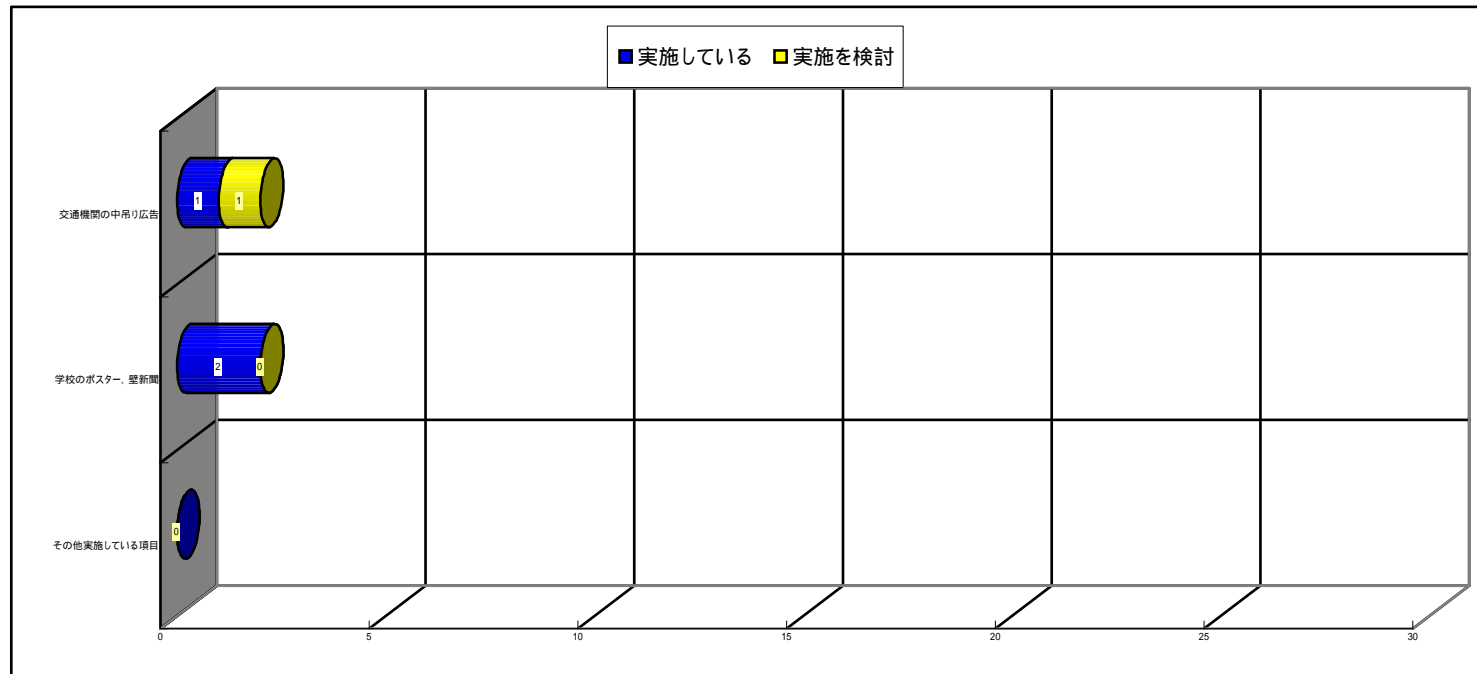
		実施している	%	実施を検討	%	該当無し	%
1	新聞広告	3	3.7	0	0.0	78	96.3
2	学習雑誌に広告	0	0.0	0	0.0	81	100.0
3	政府広報	1	1.2	0	0.0	80	98.8
4	公共広告機構	0	0.0	0	0.0	81	100.0
5	NHK等の子供ニュース	0	0.0	1	1.2	80	98.8
6	子供向け番組のスポンサー	1	1.2	1	1.2	79	97.5



* 小中・高校生に関するという限定があったためか「新聞広告」でも3件という数字であった。「子供向け番組のスポンサー」が1件、「政府広報」は特殊なものと思われるが1件あった。

E. 設置・掲示系に関する実態調査結果

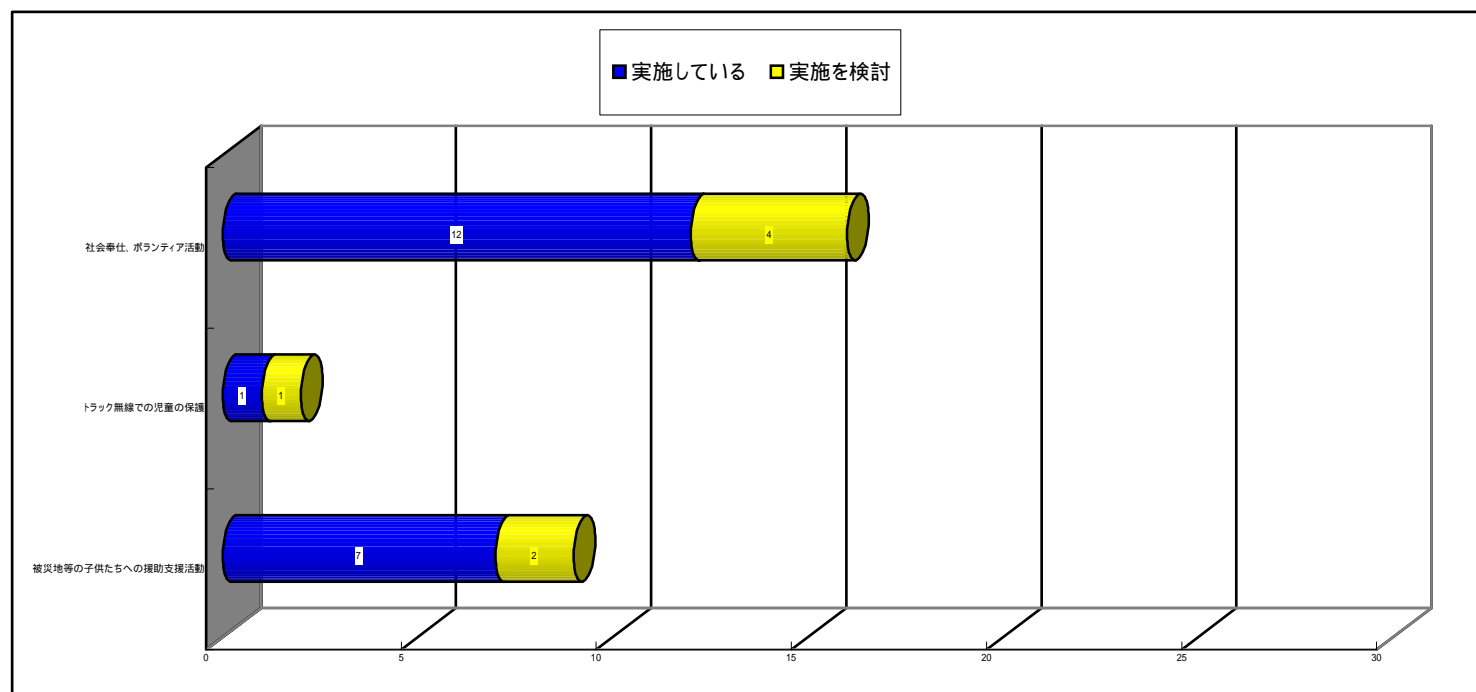
		実施している	%	実施を検討	%	該当無し	%
1	交通機関の中吊り広告	1	1.2	1	1.2	79	97.5
2	学校のポスター、壁新聞	2	2.5	0	0.0	79	97.5
3	その他実施している項目	0	0.0	0	0.0	81	100.0



* 「学校のポスター、壁新聞」が2件、「交通機関の中吊り広告」が「実施している」「実施を検討している」が1件ずつであった。

F. 活動系に関する実態調査結果

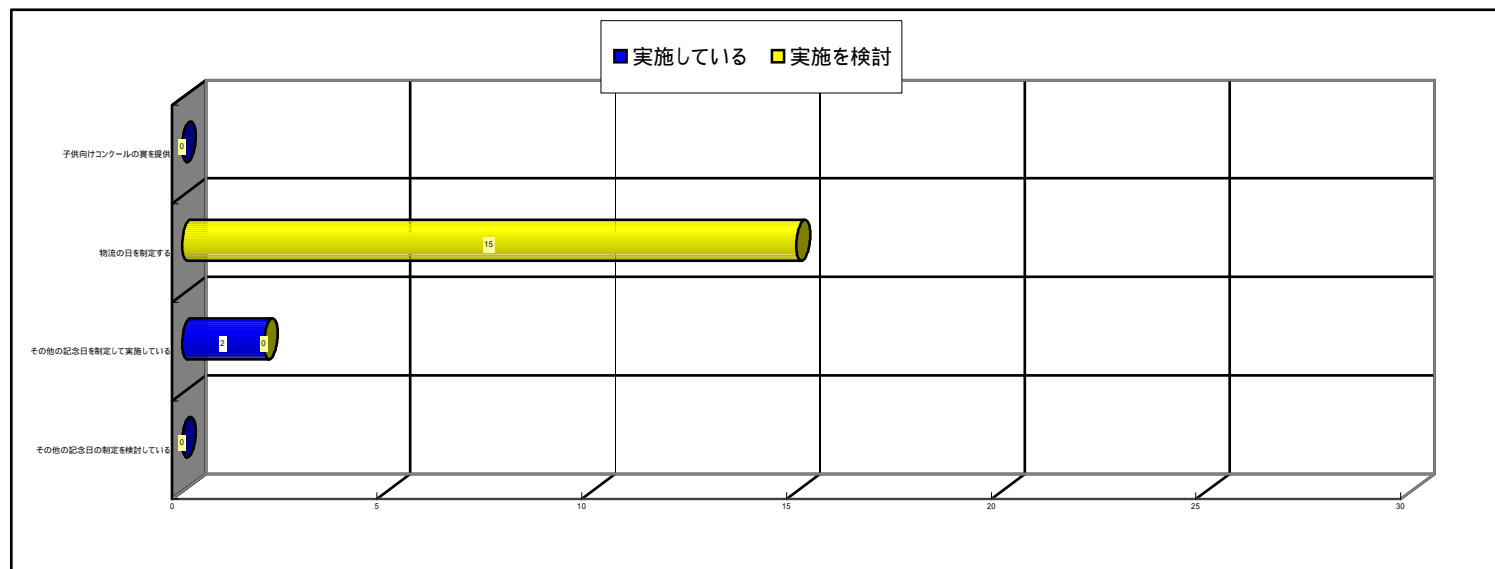
		実施している	%	実施を検討	%	該当無し	%
1	社会奉仕、ボランティア活動	12	14.8	4	4.9	65	80.2
2	トラック無線での児童の保護	1	1.2	1	1.2	79	97.5
3	被災地等の子供たちへの援助支援活動	7	8.6	2	2.5	72	88.9



* 「社会奉仕、ボランティア活動」は12件もあり、「実施を検討」も4件であった。また「被災地等の子供たちへの援助支援活動」も7件となっており、これも「実施を検討」が2件ある。「トラック無線での児童の保護」は「実施している」「実施を検討」共に1件ずつあった。

G. その他に関する実態調査結果

		実施している	%	実施を検討	%	該当無し	%
1	子供向けコンクールの賞を提供	0	0.0	1	1.2	80	98.8
2	物流の日を制定する	0	0.0	15	18.5	66	81.5
3	その他の記念日を制定して実施している	2	2.5	0	0.0	79	97.5
4	その他の記念日の制定を検討している	0	0.0	0	0.0	81	100.0



* 記念日については「記念日を制定して実施している」との解答は2社であった。「物流の日を制定する」については「賛成ですか？」の問いに15件の「実施検討」あるいは「賛成」の回答を得た。

小中・高校生の物流教育に関する教科書以外の取り組み

小中・高校生を対象とする教科書における物流の扱いについては、現在進行中の学習指導要領見直しに際しての改善等について物流連としての方針を確立したところであるが、教科書以外の取り組みについては可能なものから実施することとする。物流連の会員（企業・団体。以下同じ）に対して実施した教科書以外の取り組み実態調査において比較的多くの実績を残しているのは、見学会（先生向けを含む）の実施とPR素材の配布であった。このため、これらについて個別会員が直接要請者に対応しているもののほか、物流連においても幹旋・紹介等を実施することとし、早急に実現を図るものとする。

1. 物流見学ネットワークの構築

物流の現場について関心を持っている学校関係者等であっても実際に物流のどの分野（業態）ある物流分野のどの過程（作業形態）見学を受け入れる企業・団体の存在、これら企業・団体の連絡窓口等が分からない場合が多いと思われる。

このため、現在見学会を実施している会員および今後実施を予定している会員から見学会の内容について物流連に登録、学校関係者等から物流連に対し見学会についての要請があった場合に、物流連がその要請に応ずることが可能な見学会の有無について調査するとともに当該見学会を提供する会員との間で調整、会員側が受け入れ可能と判断した場合には物流連がその旨を要請者に連絡、要請者は会員と連絡をとり、相互に細部について調整のうえ見学会を実施、見学会を実施した場合には会員はその概要について物流連に報告する。

物流連は以上のスキーム（物流見学ネットワーク）の存在およびその内容について学校関係者等を中心に広く周知を図るものとする。

2. 物流ライブラリの設置

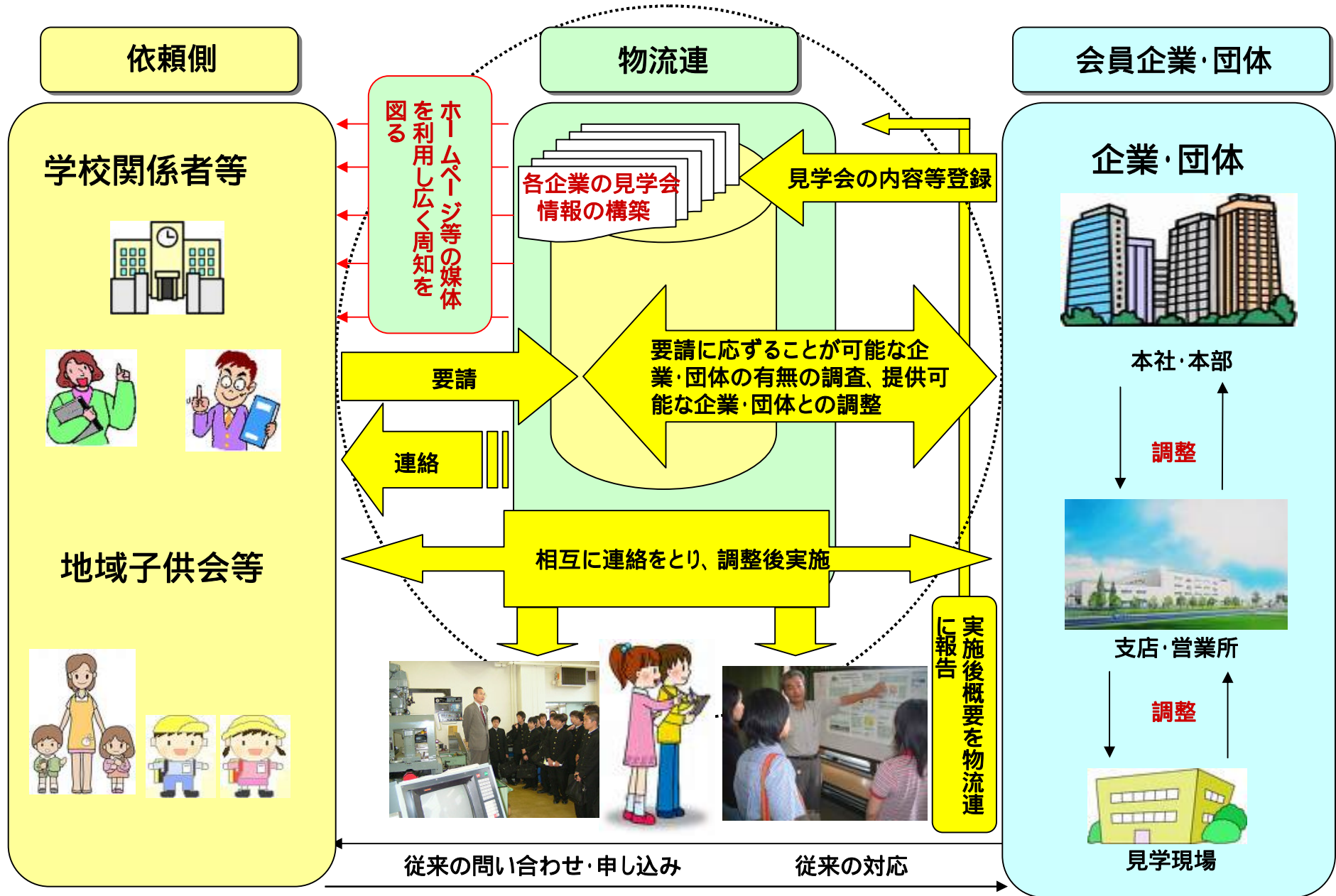
多くの会員が自社PRを含めビデオ、DVD、案内資料等の広報媒体を所持しあるいは所持を検討している。しかしながら学校関係者側にはその存在を知る術が乏しい。

このため 物流連および会員が製作・保有する物流に関する媒体のリスト（タイトル、内容、連絡窓口等）を物流連に提供、物流連は会員から提供されたリストを統合した総合リストを作成し物流連のホームページに掲載する等措置、媒体の貸与を希望する者は当該媒体を保有する会員等に直接連絡、要請を受けた会員等は可能な限りこれに応じる。

物流連は以上のスキーム（物流ライブラリ）の存在およびその内容について学校関係者を中心に広く周知を図るものとする。

物流見学ネットワークの構築(フロー図)

資料 3



物流ライブラリの設置(フロー図)

資料 4

